



第18回

全日本カッター競技大会

日 時 昭和49年5月19日（日曜日）
午前8時から午後4時まで
（雨天決行）

会 場 館山市 東京水産大学館山実習場
主 催 全日本カッター連盟
主 管 東京水産大学
後 援 館 山 市

第18回 全日本カッター競技大会

主 催 全日本カッター連盟

主 管 東京水産大学

後 援 館 山 市

日 時 昭和49年5月19日（日曜日）

午前8時から午後4時まで

会 場 館 山 市

東京水産大学館山実習場



第18回 全日本カッター

競技大会を迎えて

東京水産大学長 佐々木 忠義

相模灘を望む房総半島の館山において、第18回全日本カッター競技大会を開催することになりました。まことに喜ばしいことです。

全国の海洋、水産関係大学が参加され、日頃の練習、訓練の成果を力の限り発揮し、その覇を競い合うことは、海の若人にとっても関連大学関係者にとっても、実に痛快事であります。私は、この大会の成功を心より祈念して止みません。

こうした行事を通して、選手諸君は更に海に親しみ、海を理解し、海を科学する機会としてほしい。時あたかも新緑の候、この得難い場が、諸君の温かい友情の絆になることも期待して止みません。

なお、本大会を開催するにあたり、多くの関係各位から御好意と御賛助を賜りました。ここに記して深甚なる感謝の意を表します。

昭和49年5月

大 会 役 員

会 長	東京水産大学	学 長	佐々木忠義	
副 会 長	東京水産大学	学生部長	安藤和夫	
審 判 長	東京水産大学	教 授	山口芳夫	
役 員	海技大学校		福地章	
	海上保安大学校		伊藤実久	
	鹿児島大学		松野保金	
	神奈川歯科大学		佐藤昭治	
	神戸商船大学		杉浦市典	
	水産大学校		橋本籟之司	
	電気通信大学		松岡保司	
	東京商船大学		中柴田恵司	
	長崎大学		柴古山修郎	
	日本大学		古牧太刀郎	
	防衛大学校		細川鉄雄	
	三重大学		宮崎芳夫	
	東京水産大学			

大 会 委 員

委員長	柿原利治	会 場	清水哲夫	
庶務	三浦三郎	記録	水沢辰夫	
會計	坂本隆信	進行	原敏公	
宿泊	小坂泰重	放送	村川通寛	
	小金沢良邦	競技場	川原龍太郎	
	稻生敏康	接待	上納信一	
企画	壺井	審判		
渉外	関川	保安		
		艇		

出 漕 ク ル

海 技 大 学 校

顧問 福 地 章

(註) ●印主将 ○印マネージャー

	所属・学年	氏 名	身長	体重	出身高校	出身県
艇指揮	機 2	●富松 秋 実	172	75		
艇長	航 2	藤 田 浩	170	65		
1 番	機 2	吉 田 義 和	170	63		
2	機 1	加 藤 定	165	59		
3	機 1	黒 沢 富 春	163	58		
4	航 1	横 山 巧	164	62		
5	航 1	竹 内 憲 雄	170	63		
6	航 1	金 野 繁	168	72		
7	航 1	田 野 尻 則 夫	169	63		
8	航 1	古 川 満	167	61		
9	航 1	平 湯 崇	170	71		
10	航 1	○野 坂 義 和	169	62		
11	機 1	楯 身 和 伸	175	63		
12	機 1	柴 田 盛 人	165	60		
補	機 1	粕 谷 泰 夫	173	70		

海 上 保 安 大 学 校

顧問 伊 藤 実 (学生係長)

	所属・学年	氏 名	身長	体重	出身高校	出身県
艇指揮	通 4	倉 重 吉 範	173	63	高 森 山 口	
艇長	機 4	黒 沢 正 三 郎	168	63	緑 岡 茨 城	
1 番	航 3	浜 田 仁 司	170	63	高知学芸 高 知 城	
2	機 3	○今 泉 直 弥	165	58	古 川 宮 城	
3	航 3	伊 藤 豊 彦	174	69	府立東淀川 大 阪	
4	機 4	武 留 井 武 男	165	60	小 田 原 神 奈 川	
5	機 4	河 合 弘	163	64	浜 松 南 静 岡	
6	本 2	木 田 祐 二	166	65	浦 河 北 海 道	
7	本 2	三 木 基 実	176	76	桃 山 学 院 大 阪	
8	本 2	浜 岡 祐 一	173	73	広 島	
9	航 4	●一 藁 勝	174	73	千 葉 工 千 葉	
10	通 4	桑 原 信 也	180	68	松 浦 長 崎	
11	本 2	渡 辺 政 治	167	60	小 倉 南 福 岡	
12	航 3	岩 男 雅 之	172	62	門 司 福 岡	
補	機 3	三 橋 守 博	179	70	上 野 三 重	
〃	航 4	友 沢 博	173	65	今 治 西 愛 媛	
主 務	航 4	友 沢 博	173	65	今 治 西 愛 媛	

出 漕 ク ル

鹿 児 島 大 学

顧問 松 野 保 久

(註) ●印主将 ○印マネージャー

	所属・学年	氏 氏	名	身 長	体 重	出身高校	出身県
艇指揮	経	3	岩 佐	勇 人	172	65	上 宮 大 阪
艇長	製	3	有 山	伸 司	170	63	京 都 福 岡
1 番	増	2	東 渡	俊 一	168	60	玉 竜 鹿 児 島
2	漁	2	渡 辺	哉 郎	171	73	宗 像 福 岡
3	漁	2	土 金	直 弘	178	72	昭 和 愛 知
4	増	3	深 谷	昭 登	170	67	星 城 愛 知
5	漁	3	笹 尾	信 勝	169	70	川 越 埼 玉
6	漁	3	騰 田	勝 登	168	65	修 猷 館 福 岡
7	漁	3	諏 訪 田	直 博	178	73	玉 竜 鹿 児 島
8	漁	3	原 田	高 和	172	72	中 央 鹿 児 島
9	漁	3	●児 玉	洋 一	172	73	佐 伯 鶴 城 大 分
10	漁	3	有 馬	真 一	176	72	中 央 鹿 児 島
11	製	3	福 田	領 学	168	63	門 司 福 岡
12	漁	3	西 国	克 芳	170	65	中 央 鹿 児 島
補	増	2	○松 永	啓 二	167	60	伊 万 里 佐 賀
〃	製	2	野 田		178	70	白 陵 兵 庫

神 奈 川 歯 科 大 学

顧問 佐 藤 金 治

	所属・学年	氏	名	身 長	体 重	出身高校	出身県
艇指揮	歯	5	中 原	純 一	170	62	小 倉 高 福 岡
艇長	〃	5	植 村	貞 道	168	70	九 段 高 千 葉
1 番	〃	4	岩 崎	泰 人	170	60	南 部 和 歌 山
2	〃	4	鈴 木	正 憲	171	68	山 形 東 山 形
3	〃	3	松 下	豊 士	171	75	逗 子 開 成 神 奈 川
4	〃	3	大 村	章 夫	175	60	総 社 岡 山
5	〃	2	浜 田	慶 一	170	75	関 東 学 院 神 奈 川
6	〃	2	有 山	茂	170	62	枕 崎 鹿 児 島
7	〃	3	石 松	朗	170	59	日 田 大 分
8	〃	3	塩 津	邦 弘	165	60	天 城 岡 山
9	〃	3	土 肥	善 成	172	75	旭 川 東 北 海 道
10	〃	2	井 上	昌 次 郎	174	65	津 山 岡 山
11	〃	5	●武 生	仁 行	174	63	大 分 舞 鶴 大 分
12	〃	4	湯 山	徳 誠	174	64	杉 並 東 京
補	〃	5	大 沢	誠 修	165	65	福 岡 福 岡
〃	〃	5	○衣 川		160	54	清 風 南 海 大 阪

出 漕 ク ル

神戸商船大学

顧問 杉浦昭典

(註) ◎印主将 ○印マネージャー

	所属・学年	氏名	身長	体重	出身高校	出身県
艇指揮	E 4	伊藤 進	172	70	済々黷	熊本
艇長	N 4	伊宮 田 勇之輔	160	59	宇和	愛媛
1番	N 4	◎追立 貢	167	68	玉竜	鹿児島
2	E 3	松本 博	166	62	寝屋川	大阪
3	E 3	河合 幸一	173	69	下関	山口
4	A 3	松生 度	168	67	青森	青森
5	N 4	○葭本 博	167	63	小松島	徳島
6	E 4	山田 弥	171	67	諫早	長崎
7	E 3	宇野 進	171	70	市立西宮	兵庫
8	N 3	渡辺 治	174	70	私立愛知	愛知
9	N 4	黒木 伸孝	174	67	富島	宮崎
10	N 3	松浦 繁	171	67	福山誠之館	広島
11	E 3	森畑 純	169	65	宇部	山口
12	E 3	広藤 史	168	64	大安寺	岡山
補	E 3	佐藤 博	165	65	大城南	徳島
〃	E 3	浜本 宏一	172	70	御影	兵庫
〃	E 2	村田 正春	168	69	大和	川大
〃	E 2	村田 幸	172	70	武蔵	東大
主務	N 4	葭本 博	167	63		

水産大学校

顧問 橋本市雄

	所属・学年	氏名	身長	体重	出身高校	出身県
艇指揮	漁 3	井村 勝年	173	62	鶴見	神奈川
艇長	機 3	○興石 康雄	169	60	忍岡	東京
1番	増 2	杉山 昭博	169	62	高松工芸	香川
2	製 3	中村 正宏	173	65	豊北	山口
3	漁 3	佐藤 金充	175	64	秋田工業	秋田
4	〃 2	布藤 秀男	172	62	吉川	新潟
5	機 2	佐藤 克義	175	63	尾道北	広島
6	〃 3	斉藤 浩充	169	65	苫小牧東	北海道
7	〃 3	梶山 紋哉	172	64	武芦	佐賀
8	増 3	○桜井 士	172	67	芦屋	兵庫
9	漁 2	倉持 繁	172	62	武蔵ヶ丘	東京
10	〃 2	久保 資	170	65	高輪	東京
11	製 2	高谷 彦	164	65	加古川西	兵庫
12	機 2	松井 秀樹	173	62	佐世保西	長崎
補	漁 2	大仲 雷	172	66	藤川	埼玉
〃	〃 2	神原 竜	167	59	旭川	北海道

出 漕 ク ル

電 気 通 信 大 学

顧問 松 岡 籟 之

(註) ●印主将 ○印マネージャー

	所属・学年	氏 名	身 長	体 重	出 身	高 校	出 身 県
艇指揮	電 3	●大 村 茂	173	75	八 潮	東 京	
艇長	〃 3	○麻 田 直	170	68	小 樽 桜	北 海 道	
1 番	〃 4	蛭 田 保	172	62	匆 来	福 島	
2	通工 3	亀 田 正	170	60	泉 ケ 丘		
3	電 3	杉 崎 明	170	60	大 垣 北		
4	〃 3	谷 潤	170	60	留 蕨	北 海 道	
5	〃 3	小 川 原	170	68	羽 幌	北 海 道	
6	〃 2	横 田 一	167	65	柏 崎 工		
7	〃 3	白 木 一	165	70	尼 崎	東 京	
8	〃 2	坂 本 幹	167	59	崇 勝	徳 島	
9	〃 4	根 笹 光	172	66	勝 浦	徳 島	
10	通専 2	植 木 秀	170	59	香 河	徳 島	
11	電子 2	戸 島 盛	174	60	河 内		
12	電 3	田 中 康	169	58	津 岐		
補	〃 3	浅 野 正	165	69	岐 山		
〃	〃 2	清 水 一	158	53	鹿 児 島 ラザール		

東 京 商 船 大 学

顧問 中 島 保 司 (航海科教授)

	所属・学年	氏 名	身 長	体 重	出 身	高 校	出 身 県
艇指揮	N 4	●井 地 秀 一	163	65	戸 畑	福 岡	
艇長	N 2	佐 藤 わ	165	59	秋 田	秋 田	
1 番	N 3	宮 城 雅	165	65	西 東	東 京	
2	E 3	徳 永 慎	171	66	斐 太	岐 阜	
3	N 3	田 中 誠	175	78	富 岡	群 馬	
4	E 3	泉 谷 俊	176	70	旭 川 西	北 海 道	
5	E 3	石 坂 昭	176	70	長 岡	新 潟	
6	N 3	北 田 勝	175	83	盛 岡	一 岩	
7	E 3	高 木 公	180	80	桜 台	愛 知	
8	N 4	古 屋 隆	177	64	墨 田 川	東 京	
9	E 3	吉 田 恥	172	65	〃		
10	E 3	布 施 信	171	68	新 津	新 潟	
11	E 3	原 田 文 史	170	61	岩 川	鹿 児 島	
12	E 3	和 田 明	167	67	甲 南	鹿 児 島	
補	E 3	赤 石 正	165	63	三 原 東	広 島	
〃	E 3	渡 辺 清	170	70	上 野	東 京	
〃	N 2	竹 井 義	172	70	栃 木	栃 木	
〃	N 2	伊 藤 耕	170	68	墨 田 川	東 京	
主 務	N 4	○遠 藤 真	172	63	静 岡	静 岡	

出 漕 ク ル

長 崎 大 学

顧問 柴 田 恵 司 (漁船運用学校教授)

(註) ◎印主将 ○印マネージャー

	所属・学年	氏 名	身 長	体 重	出身高校	出身県
艇指揮	海 3	村 田 八 郎	170	60	宇和島水産	愛媛
艇長	食 3	勝 手 春 幸	171	65	浜田水産	島根
1 番	海 2	中 村 篤 雄	169	60	鹿 本	熊本
2	海 2	高 木 健 三	167	58	宇和島水産	愛媛
3	海 2	秋 村 健 司	176	72	岩 国	山口
4	海 2	伴 野 元 一	174	68	高 津	大阪
5	海 3	藪 本 隆	170	63	小浜水産	福井
6	〃 3	池 山 影 文	168	58	宮 之 城	鹿児島
7	〃 3	繩 稚 展 久	173	70	誠 之 館	広 島
8	〃 3	鍋 島 嘉 六	176	68	中 津 南	大 分
9	〃 2	蓮 香 幸 雄	170	65	鹿児島水産	鹿児島
10	〃 3	植 松 幸 郎	170	70	多渡津水産	香 川
11	〃 3	◎松 井 慎 治	172	63	鹿 本	熊本
12	〃 3	○原 賀 英 彦	170	64	鞍 手	福岡
補	〃 2	江 擘 義 彦	168	60	青 森 東	青 森

日 本 大 学

顧問 古 山 修 郎

	所属・学年	氏 名	身 長	体 重	出身高校	出身県
艇指揮	遠 4	○茂 木 治 男	170	70	本 庄	埼 玉
艇長	〃 4	平 田 正 俊	170	60	明治学院	東 京
1 番	漁 2	森 那 一 生	168	63	日大三島	静 岡
2	遠 2	須 村 公 行	169	61	北海道日大	北 海 道
3	〃 2	上 村 辰 一 郎	175	70	習 志 野	千 葉
4	漁 3	松 居 敏 雄	178	68	八 日 市	滋 賀
5	水 4	小 室 俊 夫	173	62	帝 京	東 京
6	遠 4	◎中 山 隆 夫	175	69	三 国	福 井
7	拓 3	鈴 木 勝 己	176	78	日大三島	静 岡
8	畜 3	桑 田 平 太	168	65	淡 路	兵 庫
9	漁 2	小 西 智 尚	171	63	鷺 宮	東 京
10	遠 2	中 前 雄 一 郎	170	65	由良育英	鳥 取
11	漁 2	中 野 幹 裕	167	55	相 模 原	神 奈 川
12	遠 2	杉 山 清 博	170	60	日 大 高	神 奈 川
補	漁 2	奈 良 水 春 生	171	60	日大二高	東 京
〃	〃 2	清 水 春 生	170	65	逗子開成	神 奈 川

出 漕 ク ル -

防 衛 大 学 校

顧問 牧 太刀郎 (二等海佐)

(註) ●印主将 ○印マネージャー

	所属・学年	氏 名	身 長	体 重	出身高校	出身県
艇指揮	4年	◎三 次	175	68	緑 岡	茨 城
艇 長	4	山 中 仁	167	60		
1 番	3	橋 本	162	67	益 田	島 根
2	4	岩 崎	168	62	宇 都 宮	栃 木
3	3	中 村	174	69	小 倉 南	福 岡
4	2	折 田	172	64	鹿 児 島 南	鹿 児 島
5	2	石 川	176	69	太 田	茨 城
6	4	藤 沢	175	68	綱 走 南	北 海 道
7	4	奥 島	174	70	札 幌 南	北 海 道
8	4	阿 川	176	70	萩	山 口
9	3	鈴 木	169	65	大 曲	秋 田
10	3	絞 島	171	69	枕 崎	鹿 児 島
11	4	武 田	175	68	大 曲	秋 田
12	4	菊 地	171	68	宇 都 宮	栃 木
補	3	小 野	168	67	舞 鶴	大 分
〃	3	瀬 海	167	67	八 代	熊 本
〃	3	佐 賀	174	69	竜ヶ崎 1	茨 城
主 務	4	○松 戸	171	62	仙 台 1	宮 城

三 重 大 学

顧問 細 川 鉄 雄

	所属・学年	氏 名	身 長	体 重	出身高校	出身県
艇指揮	水 3	岩 田 義 康	177	60	名古屋北	愛 知
艇 長	〃 3	○伊 藤 祐 一	157	55	尼 崎	兵 庫
1 番	〃 3	山 口 義 弘	166	64	五 条	奈 良
2	〃 2	大 村 亘	165	56	瑞 陵	愛 知
3	〃 3	日 暮 久 人	175	62	忍 岡	東 京
4	〃 3	河 本 久 治	168	64	奈 良	奈 良
5	〃 3	岡 田 哲 久	175	67	桑 名	三 重
6	〃 3	新 畑 孝 信	174	69	大 竹	三 重
7	〃 2	河 村 敏 弘	176	72	松 坂	三 重
8	〃 2	大 平 浩 史	178	76	膳 所	滋 賀
9	〃 3	中 田 優 剛	179	73	伊 勢	三 重
10	〃 3	◎石 野 定 己	183	80	伊 丹	兵 庫
11	〃 2	北 野 浩 一	167	65	千 種	愛 知
12	〃 2	梅 田 克 美	168	65	東 海	愛 知
補	工 2	稻 葉	173	64	掛 川 西	静 岡

出 漕 ク ル

東京水産大学

顧問 宮崎芳夫 (漁船運用学)

(註) ⊙印主将 ○印マネージャー

	所属・学年	氏名	身長	体重	出身高校	出身県
艇指揮	4	⊙壺井 敏郎	170	70	桃山学院	大阪
艇長	4	○坂本 隆	175	67	磐城	福島
1 番	2	紫垣 由文	174	64	熊本	熊本
2	4	鮎川 通孝	166	63	猶興館	長崎
3	2	稲田 博史	180	75	八幡中央	福岡
4	3	江口 秀伸	176	65	佐世保南	長崎
5	4	小坂 信	178	69	郡山合	奈良
6	2	内田 裕	175	70	葦城東	兵庫
7	3	三浦 三郎	178	74	城東台	徳島
8	3	荒川 修	183	78	桜野北	名古屋
9	4	小金沢 重充	166	68	野沢北	長野
10	4	関 康	174	68	下関西	山口
11	3	稲生 良	175	66	桜丘	神奈川
12	4	溝上 竜	170	65	佐世保南	長崎
補	3	清水 哲	172	65	長野	長野
〃	2	池田 博	168	70	大安寺	岡山
〃	2	加藤 泰	174	66	桂	山梨
〃	2	柳 沢 均	168	60	高崎	群馬

MEMO



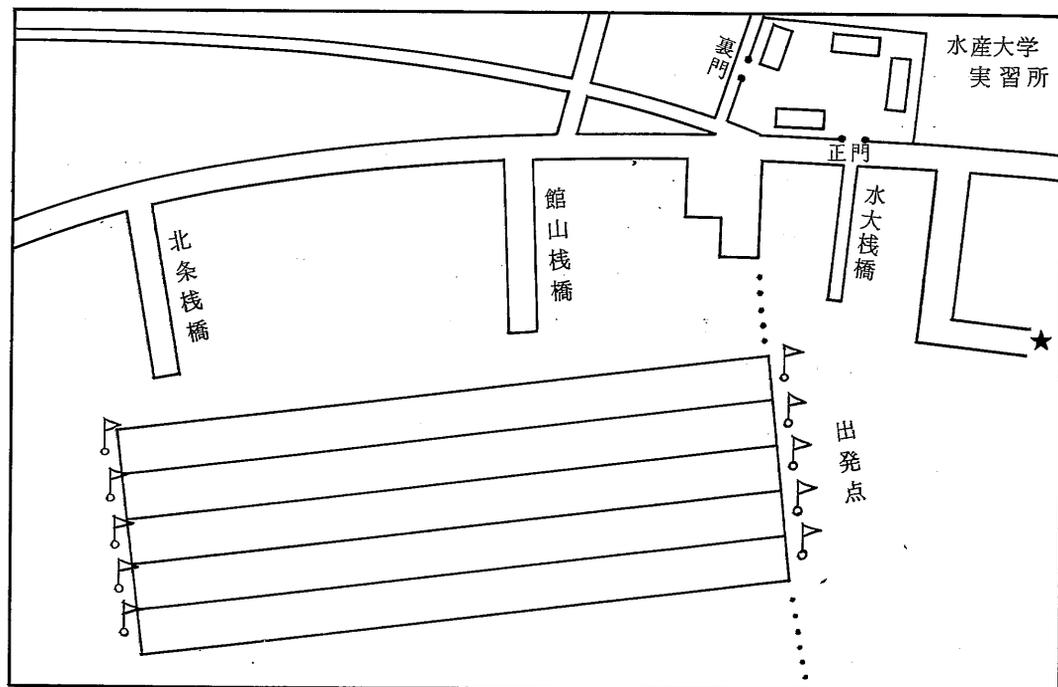
過 去 の 成 績

回	年月日	場所	参加校	優 勝	2 位	3 位
1	32.6.23	東 京	8	東京水産大学	東京商船大学	神戸商船大学
2	33.5.25	神 戸	10	東京水産大学	水産大 学校	東京商船大学
3	34.6. 7	呉	11	水産大 学校	海上保安大 学校	東京水産大学
4	35.6.15	横須賀	10	神戸商船大学	水産大 学校	海上保安大 学校
5	36.5.28	神 戸	11	東京水産大学	水産大 学校	三重県立大学
6	37.5.27	館 山	10	東京商船大学	防衛大 学校	水産大 学校
7	38.5.19	呉	11	東京水産大学	海上保安大 学校	神戸商船大学
8	39.5.10	館 山	11	神戸商船大学	海上保安大 学校	東京商船大学
9	40.5.16	神 戸	11	神戸商船大学	防衛大 学校	水産大 学校
10	41.5.15	横須賀	11	海上保安大 学校	防衛大 学校	三重県立大学
11	42.5.14	呉	11	防衛大 学校	海上保安大 学校	三重県立大学
12	43.5.19	館 山	11	防衛大 学校	神戸商船大学	海上保安大 学校
13	44.5.23	呉	9	防衛大 学校	東京商船大学	海上保安大 学校
14	45.5.17	館 山	12	防衛大 学校	長 崎 大 学	海上保安大 学校
15	46.5.16	神 戸	12	防衛大 学校	神戸商船大学	鹿児島大学
16	47.5.21	横須賀	13	防衛大 学校	海上保安大 学校	神戸商船大学
17	48.5.20	呉	12	海上保安大 学校	東京水産大学	東京商船大学
18	49.5.19	館 山	13			

審 判 規 則

1. 使用艇，オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。
2. スタート
 - 1) 各艇は指定の時刻，コース順に従い，スタートラインに整列する。
 - 2) 5分前をマイクにより通達スタートブイにつく。ブイにつき用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する。
 - 3) スタート用意：号笛短声連続，手旗 2 原画，号笛長一声手旗頭上より一回転する。
 - 4) スタート：頭上の手旗を垂直に振下すると同時に号砲を打つ。
3. 審判長，審判員がスタートを不完全と認めたときは直ちにレースを中止せしめ，スタートラインに呼び返す。諸信号，審判艇コース横断。
4. スタートにおける号令前の飛び出し及び艇の事故によるスタートの遅速等は 2 回で失格である。
5. 回頭は左回頭とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし，他の回頭旗を回頭した場合，及び回頭旗に艇又はオールの一部でも接触した場合は，全失格とする。但し，予選に於ける失格校は最下位順位決定レースに参加できる。
6. ゴール：艇首が規定のゴールラインに入った順序をもって順位とし順序は審判員が判定する。
7. 同着の場合は追込艇の勝とする。
8. ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。
9. 各艇は自己のコースを航行しもしこれを誤って他の艇に接触その他不正行為があったと審判員の認めたときには失格とする。
10. レース中のコースにおける障害，自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでないときもある。
11. レースに関する異議申立等はすみやかに艇指揮がこれを行い，審判長が裁決する。
12. オールは予備 2 本を積み自由に使用してよい。
13. 補決は 2 名以内自由に交替できる。
14. オールは流したままゴールインしてよい。

コース付近略図



レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9m 12人漕のカッターである。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは船艇同型であるのに対し、艀を切落して外観は普通の舟艇と変わらない。外板鍍張の木製でオール12本(各々長さ約4.3m, 握りの直径7.6cm, 重さ10乃至15kgである)マスト・セール等の機装品を備え帆走も可能である。漕手はCrewと呼ばれ、艇尾より艇首に向かって船右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に3, 4~11, 12番と続き、1, 2番をBowmen, 11, 12番をStrokemenと称している。Strokemenは撓漕のピッチを加減する任務をもつ。艇尾で舵を握るのが艇長で指揮号令をかけるのが艇指揮である。艇指揮は艇のすべての指揮を行い船長に相当する。

レース距離は折返し2000mの直線コースで行なう。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号をもってスタートし、スタートラインより1000mの所に設置された各コース毎の回頭旗を、艇をこれに接触させずに左回り(反時計回り)に回頭して帰ってくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインでゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4又は5チームとする。各グループの優勝チーム及び敗者復活戦で1位及び2位となった計5チームによって最後に優勝戦が行なわれる。レースはいずれも時間的ずれによる海況の変化等の影響のためにタイムレースでなく着順位である。ピッチ(1分間に漕ぐ回数)は大体30前後であるが各チームとも漕法の研究を重ねているので必ずしも一定ではなくそれぞれ特色のある漕法によるピッチを持っている。レース所要時間は10分余であるが、しかし救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行なわれ、そのような場合には30分にも及ぶことがある。カッターレースは10分余の間、一瞬といえども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ピッチをいくらに定めるか、スタートダッシュ、回頭、ラストスパートの巧拙、風浪、海潮等の対策、利用の巧拙等たゆまぬ練習、シーマンシップを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

天候 *bc* 風向 *SW* 風速 *1* 波浪 *calm*

時刻	種目	コース	校名	艇	着順	タイム
08.30	開 会 式					
09.30	予選第1レース	1	東水大	34	2	11'37"9
		2	防大	43	1	11'27"5
		3	海保大	32	3	11'41"7
		4	日大	14	5	12'16"2
		5	三重大	13	4	12'00"2
10.10	予選第2レース	2	長崎大	32	1	11'37"6
		3	電通大	14	3	13'00"6
		4	神齒大	43	4	13'40"1
		5	鹿大	13	2	11'57"3
10.50	予選第3レース	2	神船大	43	1	11'39"4
		3	水産大	13	2	11'42"6
		4	東船大	32	3	12'14"8
		5	海技大	34	4	12'37"0
11.15 ~ 12.30	昼 食 休 憩					
13.00	敗者復活レース (兼順位決定レース)	1	東水大	43	6	11'42"6
		2	海保大	13	/	11'40"2
		3	水産大	14	/	11'40"6
		4	鹿大	34	7	11'54"2
		5	東船大	32	8	12'18"7
13.40	順位決定レース	1	電通大	14	12	13'23"4
		2	神齒大	43	13	13'30"0
		3	日大	34	10	12'39"1
		4	三重大	32	9	12'28"1
		5	海技大	13	11	12'58"8
14.30	決勝レース	1	長崎大	14	7	11'26"4
		2	神船大	13	4	11'54"2
		3	防大	32	5	12'04"3
		4	水産大	43	3	11'50"0
		5	海保大	34	2	11'40"0
15.00	閉 会 式					